

第2回中山台地区教育環境適正化検討委員会議事録（概要）

I 日時

平成 29 年 3 月 13 日(月) 10:00~12:00

II 場所

中山台コミュニティセンター 2階 2-1会議室

III 記録

1 開会あいさつ

2 議事

【事務局より】

第1回の中山台地区教育環境適正化検討委員会において、中山五月台中学校の適正規模を維持するため、隣接する校区の保護者からの申請に基づき、中山五月台中学校にも進学ができる「通学区域の弾力的運用」を適用する方向性を確認し、山手台地区の保護者や地域と意見交換を進めてきた。

結果的には、時期が遅すぎるなどから、4月からの運用開始を見送った。

出された課題を踏まえ、保護者や地域の皆さんと共通認識の下でしっかり進めていきたい。幼稚園の取り組みについては、基本方針の説明を重ねてきたが、具体的な計画を示せなかったことから、不安を抱かせることになり、お詫びしたい。

本日は、廃園の予定時期、3年保育の実施、通園手段の確保について、考え方を説明し、意見交換したい。

(1) 中山五月台中学校の小規模化解消のための山手台地区を対象とした通学区域の弾力的運用について（報告）

【説明】

①経過について

中学校への進学に関する案件であることから、まず、9月23日に中学校長に説明した。10月17日には、第1回目の中山台地区の教育環境適正化検討委員会の場で、中山五月台中学校の適正化は通学区域の弾力的運用によると方向性を確認した。

その後、山手台中学校長との意見交換や教育委員への説明を経て、11月5日、山手台小学校区の山本山手コミュニティに説明した。

ここでは、時期が遅いが、いずれにしても、保護者の意見をしっかりと聞くよう、ご指摘を受けた。

この後、山手台小学校のPTA関係者への説明の後、全保護者を対象とした意見を聞く会を開いた。保護者の参加が非常に少なく、コミュニティからの参加が多かったが、

時期が遅いことや山手台地区にはメリットが見えにくいこと、学校規模に課題のある地域から取り組むべきで、

時間をかけて協議すべきとのご意見があった。

この他、山手台地区にも地域や保護者から意見を聞くような会の設置について、ご要望があった。

②結果、③今後の取り組み

保護者や地域の指摘を受け、今年度の6年生からの適用を見送ることとした。

しかしながら、次年度以降の実施に向けた取り組みを進めるため、今後、保護者、地域、学校、行政で構成する意見交換会を開催して進めていきたいと考えている。

次年度からの実施に向けた取り組みを早期に開始したい。そのため、3月4日には、山本山手コミュニティに、3月8日にはPTAの運営協議会へ説明して、理解と協力の依頼をしてきた。

【質問・意見】

なし

(2) 中山五月台幼稚園についての方向性 (案)

【説明】

園児募集の停止時期と通園手段の確保策の2点について、考え方をまとめた。

ただし、本件は政策、財政分野など、市長部局にも関係することから、皆様方からのご意見に加え、関係部署との協議や調整のうえ、教育委員会として意思決定し、具体的な取り組みを進めていく。

①園児募集停止時期 (案) 及び②通園手段の確保策 (案)

園児募集の停止時期は、秋の説明会では、本年度と平成29年度の園児募集は実施する。その後は、今後検討します。と答えていた。

具体的には、さらに1年間、園児募集の停止時期を延期し、平成30年10月に実施する園児募集まで続けることとする。

レジュメの図に示した通り、平成31年度までは2学年揃った運営になるが、平成31年10月の園児募集から停止するため、平成32年度は5歳児のみとなり、翌年度に廃園となる予定だと考えている。

②通園手段の確保策 (案)

通園手段の確保策では、ミニバスや路線バスの活用も含めて検討していく。

私立幼稚園との関係や路線バスの規制等があり、また、当然、費用の問題もあり、こうした課題を整理しながら、具体的に検討を進めていく。

【質問・意見】

- 募集停止の時期を1年間延期した理由は？
⇒ 5月～6月頃に具体的な計画を公表していきたい。この時期から保護者へ周知し、2歳児のお子さまの就園先を探す時間が必要となる。この期間を確保するため、1年間延期した。

- 通園手段の確保策について、バス等を利用する場合、費用面で保護者負担の額が増えるのか？
⇒ 路線バスでは運賃、ミニバスでは借り上げ料が発生する。この費用負担のあり方も含めて、詳細な検討が必要であると考えている。

- 現在、徒歩通園している。30分程度歩くが、子どもの足腰が強くなり、元気に過ごしている。バスが出ても、ある程度、徒歩通園が出来るよう工夫してほしい。

- バスなどの通園手段は確保してもらえると考えて良いのか
⇒ 費用負担の問題や課題はあるが、通園手段については何らかの方法で確保していきたい。

- 3月1日に中山台と山手台を結ぶ新しい路線が出来た。長尾幼稚園へ行くには便利になった。

- たとえバスが出ても、長尾幼稚園まで送迎する保護者の負担が出てくる。今まで歩いて通っていた幼稚園がバスか車でなければ行けない。
朝、子どもを送って行って、すぐにお迎えがある。1日に2往復しなければならない。参観日の日は3往復にもなる。保護者の負担も考えて欲しい。
また、保護者が幼稚園に行くことが多く、精神的にも肉体的にも経済的にも負担になる。園バスとして独自のバスを出してほしい。

- 平成33年度に閉園になることは残念。中山五月台幼稚園を残して欲しいと思い、署名活動もしてきたが、残す方向ではないと考えれば良いのか。
幼稚園がなくなると不安になる。小さい子どものお母さんは不安になっている。
長尾幼稚園で3年保育をするために中山五月台幼稚園が廃園になるのではないか。
募集停止の時期を1年伸ばすのであれば、もう少し伸ばして欲しい。
⇒ 既に提示している基本方針では、園名は掲げていないものの、小規模化が著しい園を対象として統廃合の考え方を示している。時期を定めていなかっただけ。今日、初めて時期の案を提示した。
3年保育のための中山五月台幼稚園を廃園する訳ではない。適正規模・適正配置による教育環境の整備と市立幼稚園における3年保育の2つの事業を同時に進めようとしている。

- 中山五月台幼稚園を廃園した場合、中山台地区の幼児は優先して他の市立幼稚園に入園できるのか。
- ⇒ 通園できる近隣の幼稚園は長尾幼稚園になるが、長尾幼稚園の施設規模では十分に受け入れができる。

- 長尾幼稚園まで車で送迎する場合、長尾幼稚園の駐車場は利用できるのか。
- 今、長尾幼稚園に車で送迎している人は、どうしているのか教えてほしい。
- ⇒ 登園時刻やお迎えの時間帯は車の乗り入れは原則としてお断りしている。
- 車での送迎については、園長に申請すれば許可している。長尾幼稚園の場合、あいあいパークの駐車場に停めて、そこから徒歩で通園している。
- 現在の通園方法について、園から聞き取り、次回の適正化検討委員会で情報提供する。

- 長尾幼稚園は、車での送迎を想定して園内に駐車場を用意していると聞いた。
- ⇒ 園地内に駐車スペースはあるが、保護者の送迎を主な目的としていない。特別な事情がある場合は別であるが、原則、保護者の車の乗り入れは禁止している。

- 中山五月台幼稚園を残してほしい。少子化の影響や財政的な問題があり難しいと思うが、子どもの様子を見ていても単学級が良くないとは思えない。
- ⇒ 園としては、現状の中でより良い保育の実践に努めている。教諭も最大限、努力している。しかしながら、複数学級の園を見ていると活気が違い、子どもたちも切磋琢磨している様子が伺える。教諭は1学年1人で、他のクラスの様子を見たり、相談することが出来ない。そういう意味では単学級は良くないと思う。

- 長年、中山五月台幼稚園に関わってきたが、最近になって分かってきた。単学級になって、子どもの数が減ると良いと思っていた。でも、切磋琢磨する環境が減ったと感じている。単学級の影響の一つではないかと感じている。

- 中山五月台幼稚園の廃園は決定なのか。廃園になると分かれば、私立幼稚園や他の市立幼稚園に流れる恐れがあり、一層、園児数が減少する。その場合、廃園の時期が予定変更して前倒しにならないのか。
- ⇒ 今回提示した時期から前倒しは考えていない。

- 単学級を良くないと言われたが、最後の年はどうするのか。5歳児だけになる。
- ⇒ 最後の年は致し方ない。出来る限りの配慮が必要になる。

- 単学級にはメリット、デメリットの両方がある。今、中山五月台幼稚園では、先生方が、このデメリットをカバーしているので、見えてこないだけ。

- 最終的に決定するのはいつ。遅れる場合には、そのことも含めてお知らせしてほしい。
⇒ 5月頃に実施計画として確定したい。遅れる場合はお知らせする。

(3) 3年保育の実施(案)

【説明】

本件についても政策、財政分野など、市長部局にも関係することから、皆様方からのご意見に加え、関係部署との協議や調整のうえ、教育委員会として意思決定し、具体的な取り組みを進めていく。

実施を見込んでいる幼稚園は、既に施設設備の整っている園を想定しているため、長尾幼稚園と仁川幼稚園での実施を検討している。

時期については、出来る限り早期に取り組みたいと考えている。

【質問・意見】

なし

(4) 中山五月台小学校について

【説明】

①平成29年度の児童生徒数及び学級数見込み

平成29年度の中山五月台小学校の新1年生は11人の見込み。資料集の10ページでは、中山五月台小学校区の年度別歳児別の人口一覧を掲載している。

平成16年度では就学前が270人、小学校の年代で375人、中学校の年代で185人、計830人の子どもがいた。

一番下の平成28年度、今年度の就学前で105人、平成16年度から60%以上減っている。小学校の年代で132人、65%減っている。中学校の年代が83人で55%減っている。いずれの年代も50%を大きく割っている。

平成28年度欄の5歳児が12人。このうち11人が通常学級で1人が特別支援学級。全員、中山五月台小学校へ入学する予定であるが、これが上限である。こうした状況が今後も続き、20人以下の学級が続くことになる。

1学年単学級は小規模校の中でも深刻な学校規模とされているが、その中でも1学年で20人を下回る場合は、さらに深刻な状況だと言われている。大阪市では1学年20人以下、又は全校で120人以下となった場合は統廃合するよう規定を持っている。

こうした状況にあることを前提として、小規模校の課題整理について説明する。

②小規模校の課題整理(基本方針より)

ア. 学校教育では、一定の児童生徒数や学級数があることにより、子どもが集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばすことから、一定の児童生徒数や学級数が必要です。

- イ. 人間関係を序列化、固定化しないよう、各学年でクラス替えができるよう複数の学級が必要です。
- ウ. 体育ではクラス対抗ができ、部活動においても、子どもたちに十分な選択肢を用意する必要があります。
- エ. 教員配置では、学年複数学級とすることで、教員同士が指導方法について協議ができ、また、組織的な校務分掌も確保され、教員が互いに切磋琢磨するために必要な教員数を確保する必要があります。

③小規模校における適正化の手法（基本方針より）

- ア. 学校の統合
- イ. 通学区域の変更
- ウ. 通学区域の弾力的運用

まずは、身近な地域の皆さん、保護者、就学前のこれからの保護者も含めて、中山五月台小学校の子どもたちの様子や教育環境という視点から、感想やご意見をお伺いしたい。

第一歩としては、課題の共有からはじめたいと思う。

【質問・意見】

○ 中山五月台小学校のPTA運営は大変。人数が少ないので、6年間のうち、何度か役員が回ってくる。助け合いなど、保護者同士も協力しながら進めている。

○ 宮崎市に4000戸の住宅地がある。西小学校があり、子どもの増加に合わせて東小学校が出来た。今は、少子化により児童数が減っているが、地域では、はじめから、東小学校は西小学校に統合されると思っていたという。

子どものために何が良いのか、そこを考えたい。

昭和52年、当時のクラレ不動産のパンフレットには、計画人口が20,000人で5,000世帯の計画都市。幼稚園、小学校、中学校、高等学校が既に開校されている。将来的には、幼稚園が4園、小学校が2校、中学校が2校、高等学校1校設置が計画されている。教育都市として充実してきた。と書かれている。

これを前提に人が集まった。でも、こうなる（少子化）ことは予想されていたこと。

ここで提案したい。小学校と中学校の一貫教育（高校も含めて）について、今後の検討課題に入れて欲しい。

【副市長】

ありがとうございました。今日は、特に幼稚園の保護者の皆さんの生の声を聞かせていた

だきまして、ありがとうございました。

実は、私の孫の話ですが、坂道が非常に厳しくて、幼稚園までも遠く、送迎も大変だと、自分自身が感じています。

教育長の時に常に言ってきたのは、「子どものためにどうするのか」ということを基本として、全て物事を考えていこうとしていました。常に、それは「子どものために」ということが中心となり、我々が、或いは教育委員会は、子どものために何が良いかということをお皆さんと一緒に検討していきたいと思ひます。

それから、通園手段など、将来の心配事は、私も教育と一緒に成って庁内で協議していきまひます。これは、丁寧に進めるよう、教育委員会には要請しまひます。

廃園の時期ですが、今日、時期を示した資料を出しました。出した資料は責任を持って、庁内でも進めていくのが当たり前だと思ひますので、そのように対応していきたく思ひまひます。

今日はお邪魔しまして、ありがとうございました。

(5) 次年度の委員体制について

【説明】

新年度、PTAなど、一部の団体では役員改選があると思ひます。

この役員改選に伴って、この委員会の委員も一部変更が生じる場合がありますが、それぞれの団体の役員改選に伴って、本委員に変更が生じる場合は、その団体から選出された方に委員を変更したいと思ひますが、ご異議はございませんでしうか。

～ 異議なし ～

(6) その他

○ 中山五月台幼稚園の募集停止時期（廃園時期含む）や通園手段の確保策については、保護者の関心事である。どのように周知するのひか？

⇒ まだ協議課程にあるので、周知するものではない。ただし、適正化検討委員会は、各種団体から選出された方であることから、出身団体へ説明したいただくことに差し支えはない。その手段として、今日の資料をコピーしていただいても良い。ただし、庁内協議や意思決定後に正式に決定するものであることをしっかり説明してほしい。

(7) 次回の日程について

幼稚園の具体的な計画が正式に決定された後に開催したい。6月以降になる。

【閉会】